



# 2024年5月期(第38期) 第1四半期決算

株式会社ウェザーニューズ  
2023年10月6日

**WN** **weathernews** *Always WITH you!*

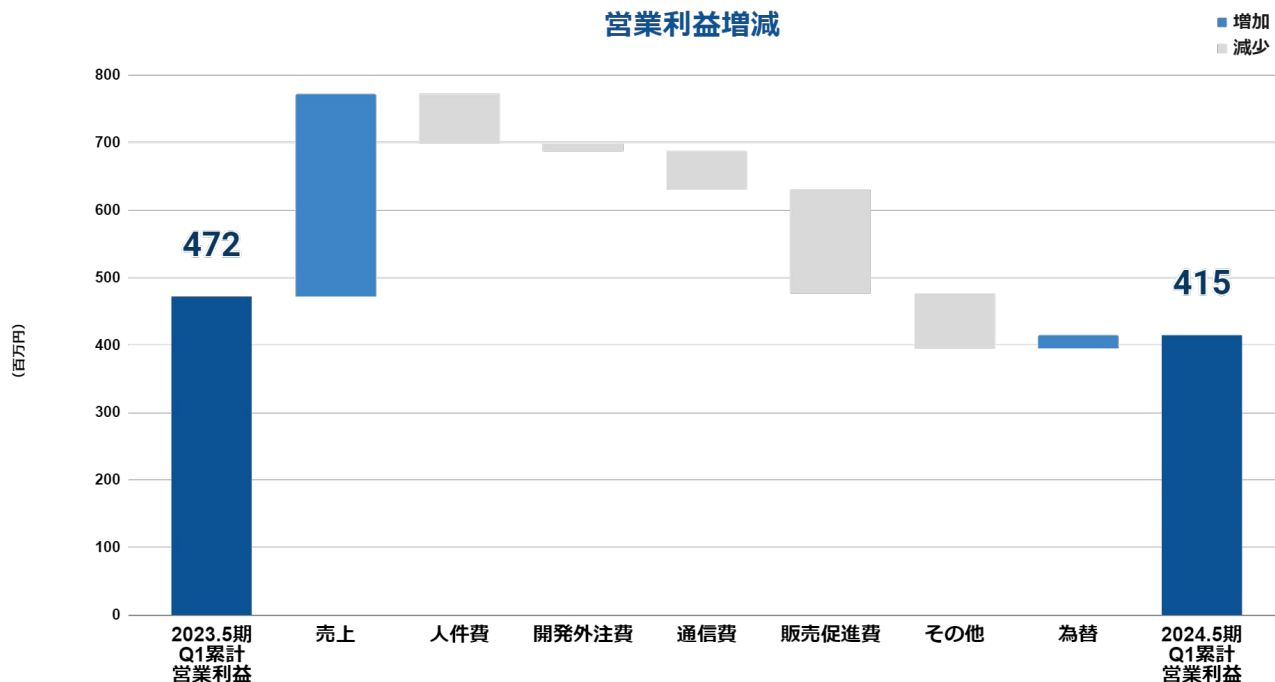
【売上】 5,580百万円(前年同期比 6.8%増):モバイル、航海、陸上事業が売上成長を牽引

【営業利益】 415百万円(前年同期比 12.1%減):広告費の先行投資及び人件費の増加の影響で減益

単位:百万円	2023.5 Q1 実績	2024.5 Q1 実績	前年同期比
売上高	5,225	5,580	+6.8%
営業利益	472	415	△12.1%
営業利益率 (%)	9.0	7.4	△1.6Pt
経常利益	525	443	△15.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	369	428	+16.1%
EPS (円)	33.5	38.9	+5.4円
為替 (JPY/USD) (円)	133.6	142.5	+8.9円

## 営業利益の増減

- ・ 大雨や台風などの気象トピックの発生を背景に集中的に広告投資を実施し、販売促進費が増加
- ・ 海外事業推進や開発に関わる人財投資で人件費が増加
- ・ クラウドベースのサービス開発で通信費が増加
- ・ その他、旅費交通費やアウトソース費などが増加

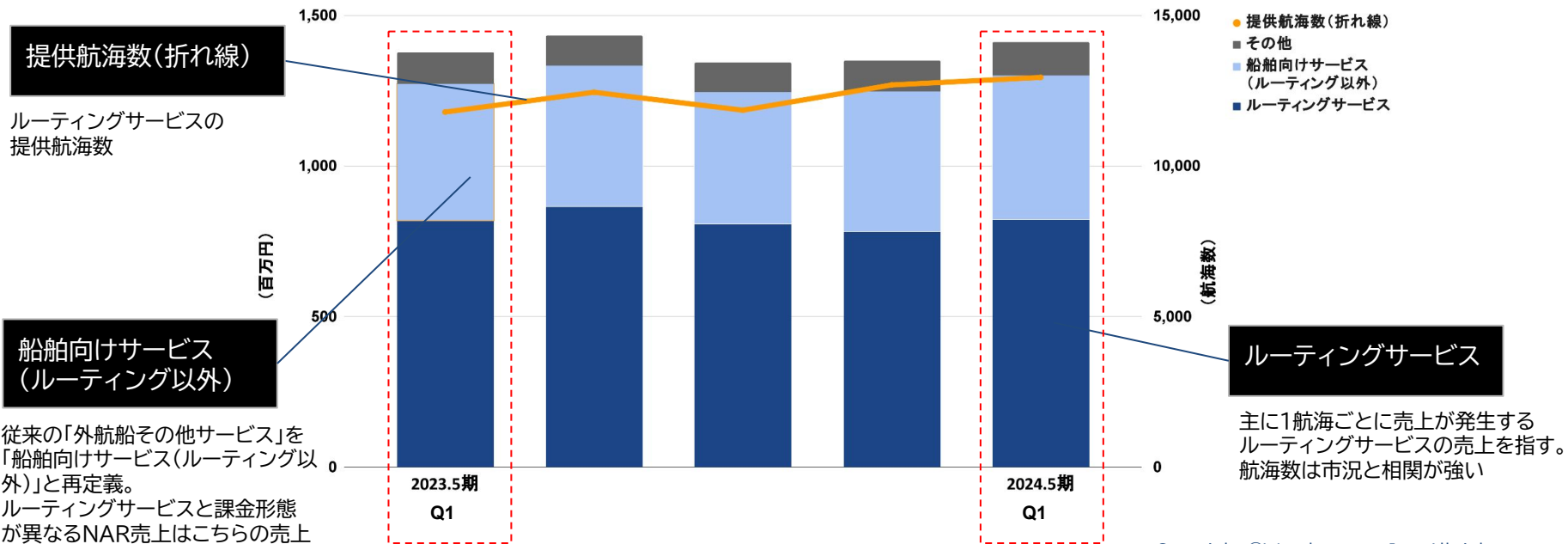


# 1. 2024年5月期 第1四半期決算概要 事業別売上

単位:百万円	2023.5 Q1 実績	2024.5 Q1 実績	前年同期比 (%)	事業状況
航海気象	1,378	1,411	2.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞船緩和により船腹供給量が回復した一方で、貨物需要が減少したことで市況は軟調に推移</li> <li>・欧州のサービス提供数が減少するも環境運航対応サービスのOSR-eを拡販。為替の影響もあり増収</li> </ul>
航空気象	334	301	△9.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアライン市場において、水際対策の終了や行動制限の撤廃により国内・国際線ともに旅客数の回復が継続</li> <li>・当社においても国内外エアライン市場の売上が回復するも、前年同期比で減収</li> </ul> <p>(※前期第1四半期における、連結決算日との間に生じた重要な取引に関わる必要な調整に伴う一時的な影響を除くと増収)</p>
陸上気象	734	802	9.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極端気象発生時の拠点防災や輸送影響など、物流における安全確保の観点で気象情報のニーズが高まる</li> <li>・高速道路市場において、地域特性を加味した気象情報の提供により顧客が拡大し増収</li> </ul>
環境気象	225	286	27.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の再エネ市場の発展や、日本の夏場の台風、豪雨、猛暑等でエネルギー気象全般のニーズが高まる</li> <li>・エネルギー市場向けに気象予測、再エネ予測、電力需要予測サービスの拡販を継続したことにより増収</li> </ul>
その他BtoB	7	22	182.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候テック事業において、国内企業を中心に気候変動リスク分析サービス「Climate Impact」を拡販</li> </ul>
モバイル・インターネット気象	2,011	2,229	10.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビCMやネット広告などの投資を継続した結果、アプリ利用者数が増加</li> <li>・日本国内において気象トピックへの注目が高まる中、アプリコンテンツの充実を通じてユーザーの満足度や活用度が向上し、サブスクリプションサービス売上及び広告収入ともに増収</li> </ul>
放送気象	532	525	△1.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災報道において、極端気象に伴う大雨、猛暑などの気象情報の重要性がますます高まる</li> <li>・テレビ局等の主要顧客の事業環境の構造的な変化に伴いコスト見直しの動きが続く中、サービス運営の効率化や新サービス構築の取り組みを推進</li> </ul>

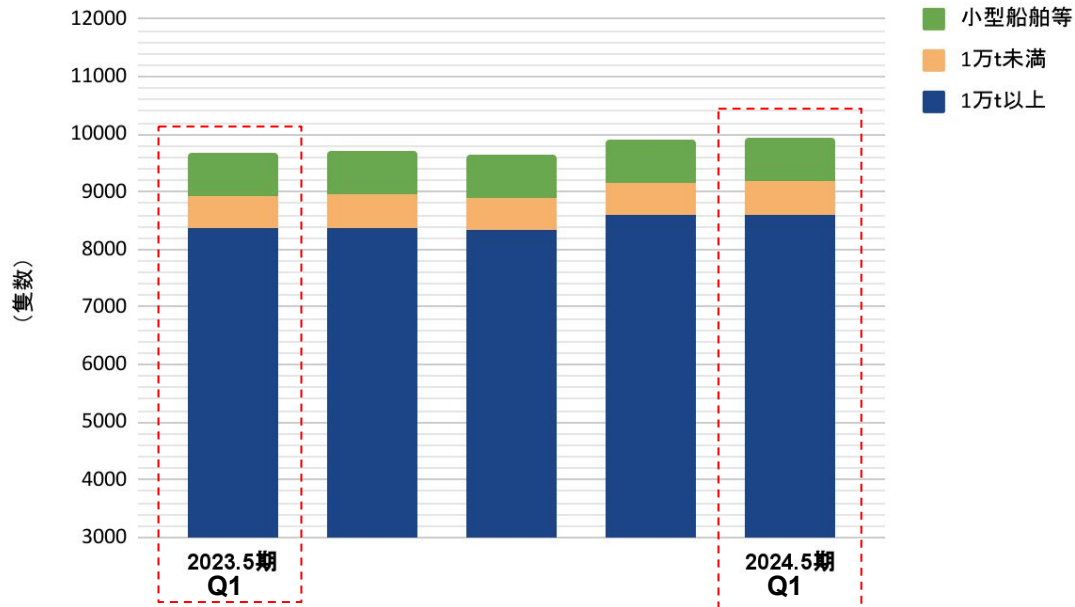
- ・欧州のサービス提供数が減少したものの、OSR-eの売上増加と為替影響で増収
- ・コンテナの市況回復、台風の影響により提供航海数が増加

売上高および提供航海数の四半期推移

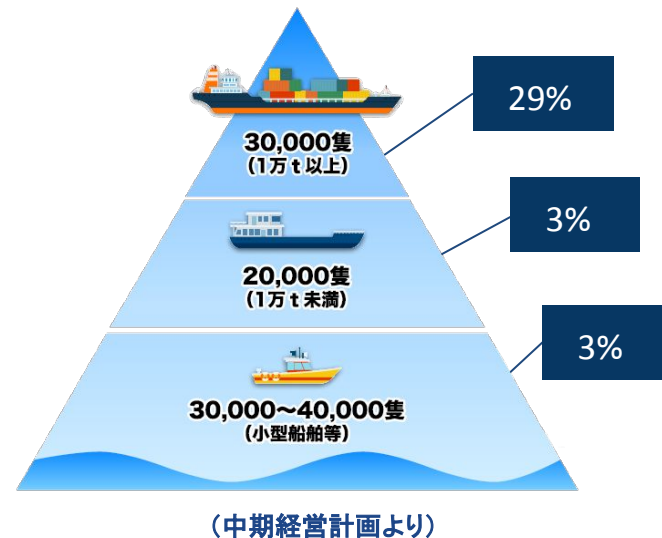


従来の「外航船その他サービス」を「船舶向けサービス(ルーティング以外)」と再定義。ルーティングサービスと課金形態が異なるNAR売上はこちらの売上に包括

### サービス提供隻数



### 航海気象事業のTAMと当社占有率(2023.5期Q1時点)



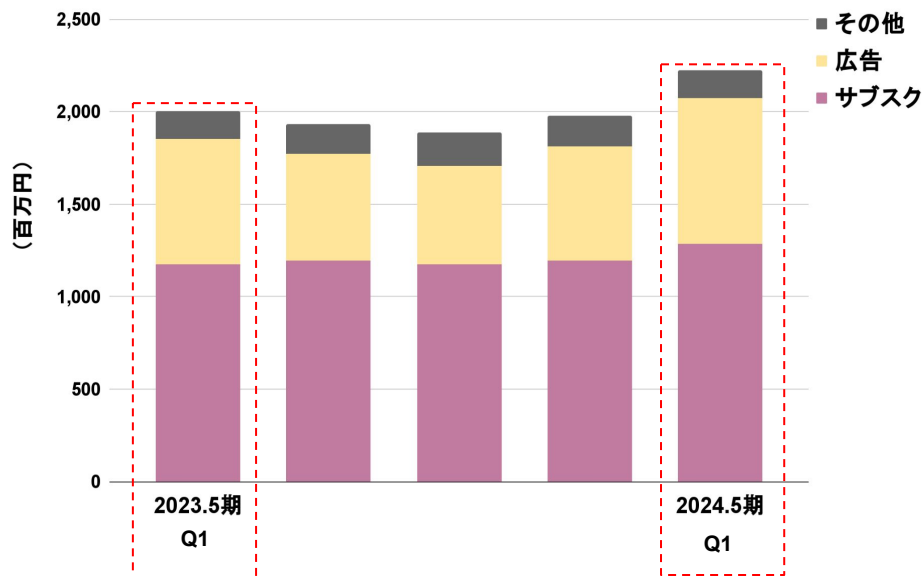
#### サービス提供隻数開示区分の変更

(旧)OSRとNARの隻数開示 (新)中期経営計画TAM別の隻数開示

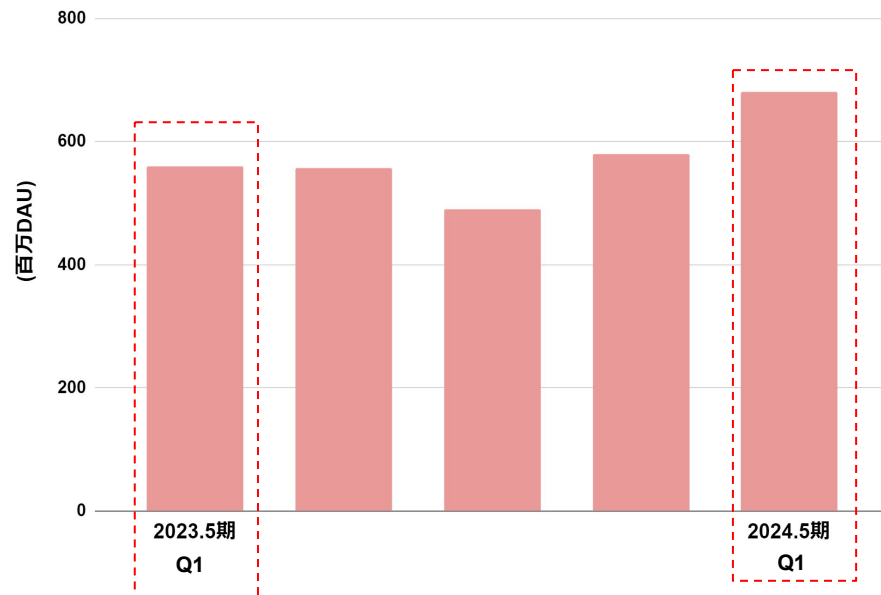
- ・中期経営計画に記載のTAMに対する進捗や市場占有率を把握しやすいよう隻数開示方法を変更
- ・今後、サービスメニューの統合やシンプルな価格体系になることを想定
- ・サービス提供隻数: 何らかの当社サービスを利用している隻数(複数サービス利用時も 1隻カウント)

- 広告投資による認知度向上と高い予報精度で、サブスクリプション売上及び広告収入が増加
- 大雨や猛暑等を背景とした利用機会増加とコンテンツの拡充でアプリ利用頻度・累積DAUが増加

### 売上高 四半期推移



### 累積DAU 四半期推移



## 2. 2024年5月期 通期業績予想 業績予想サマリ

### ■ 期初計画から変化なし

【売上】 22,500百万円(前期比 6.6%増)

モバイル事業の成長継続、既存BtoB事業の拡大で増収を計画

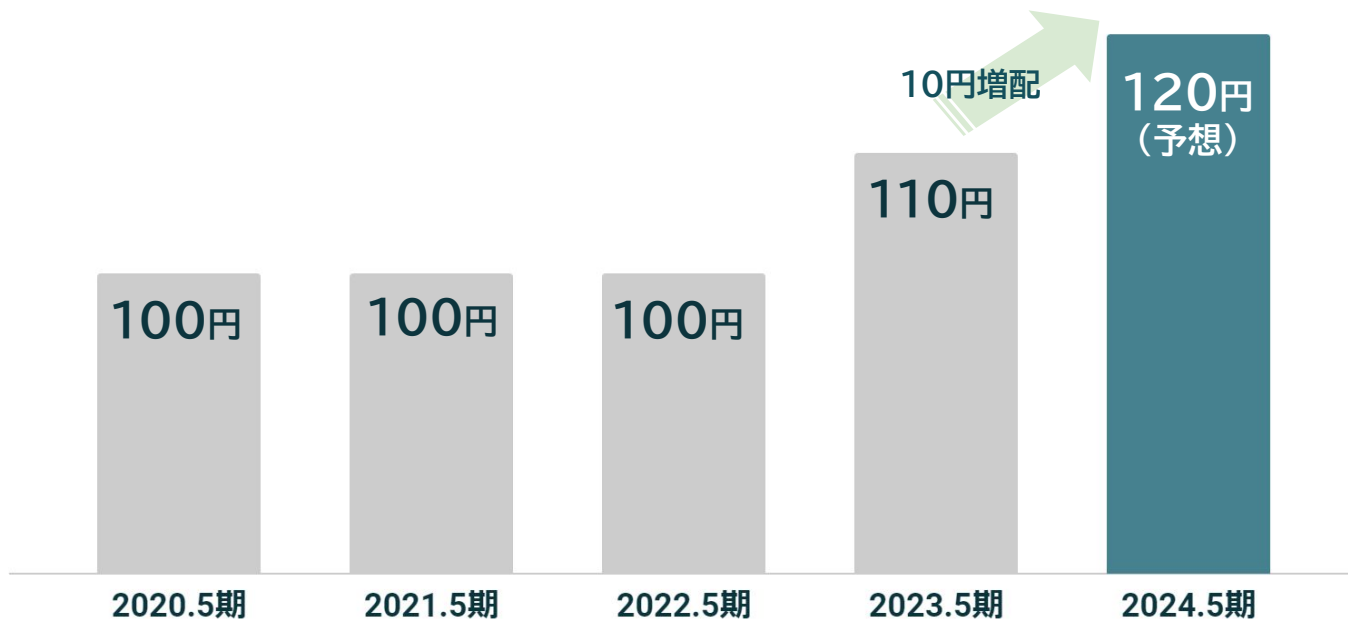
【営業利益】 3,500百万円(前期比 7.5%増)

広告投資、海外展開に向けた人財投資、データ・クラウドへの投資を継続

単位:百万円	2023.5実績	2024.5計画	前期比
売上高	21,114	22,500	+6.6%
営業利益	3,256	3,500	+7.5%
営業利益率 (%)	15.4	15.6	+0.2Pt
経常利益	3,284	3,500	+6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,398	2,500	+4.3%
EPS (円)	217.7	226.5	+8.8円
ROE (%)	13.7	13.2	△0.5Pt
為替 (JPY/USD) (円)	135.5	130.0	△5.5円



- ・「高貢献、高収益、高分配」の考えのもと、中長期にビジネスを推進する戦略的事業投資を優先しつつ、長期安定配当として株主資本配当率(DOE)3%程度を基準とし、最適な自己資本水準及び投資環境、利益等を総合的に考慮して配当を決定
- ・当期(2024.5期)は1株当たりの年間配当を120円とする予定



# APPENDIX

単位:百万円	2023.5 Q1 実績	2023.5 期末実績	2024.5 Q1 実績
流動資産	15,333	17,377	16,994
固定資産	3,669	3,602	3,635
資産合計	19,003	20,979	20,630
流動負債	2,118	2,300	2,128
固定負債	115	278	258
負債合計	2,234	2,579	2,387
純資産合計	16,768	18,400	18,242
自己資本比率 (%)	87.8	87.3	88.0
1株あたり純資産 (円)	1,516.4	1,661.3	1,647.0

単位:百万円	2023.5期				2024.5期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
航海気象	1,378	1,432	1,342	1,351	1,411
航空気象	334	311	301	289	301
陸上気象	734	765	908	795	802
環境気象	225	249	300	270	286
その他BtoB	7	10	11	22	22
Eメール・インターネット気象	2,011	1,940	1,891	1,987	2,229
放送気象	532	554	564	597	525



当社は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき、本資料を作成しておりますが、本資料の正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、業績予想など将来に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々なリスクや不確定な要素などの要因により異なる場合があります。